これまでおこなってきた
プロジェクトの一部を紹介します

民話 声の図書室

「みやぎ民話の会」が40年にわたって記録してきた、宮城県を中心とする民話語りの映像・音声をデジタル化し、「民話 声の図書室」として公開していく活動です。それらの資料を参加者のみなさんと聞き比べ対話する「民話 ゆうわ座」も開催しています。(みやぎ民話の会「民話 声の図書室」プロジェクトチーム)

くろい音楽室

地元の音楽愛好家と一緒にテーマに沿った音楽を紹介しながら、地元仙台にまつわる「くろい音楽」(ファンク、ソウル、ヒップホップなど)について参加者のみなさんと語り合う場です。(宮城アナログ文化協会)

どこコレ？－教えてください昭和のセンダイ－

市民のみなさんから寄せられた写真や8ミリフィルムの中には、どこを撮ったのか、いつごろのものか、わからないものがたくさんあります。公開展示や対話の場を通じて、「コレ」は「どこ」なのか、参加者のみなさんに情報を募り、アーカイブしていくプロジェクトです。(NPO法人20世紀アーカイブ仙台)

プロジェクション・せんだい

仙台の映画文化発展に大きな役割を果たした「映写技師 浅井浩雄」氏のインタビュー形式での映像記録をおこなっています。浅井氏の人生を基軸に、仙台の映画文化のドキュメンタリーを作成中。(こえシネマ)

おほはしアラウンド

広瀬川右岸・大橋周辺に埋もれている地域資源を発掘し、人々を惹きつける魅力としてガイドツアー、情報発信、アートなどさまざまに活用できるように記録する活動。多層に積み重ねられた歴史と地域の生活文化を尊重するまちづくりとして取り組んでいます。(地域探検隊 -TTT-)

こけし、かだる？

工人(こけしをつくる人)のお話をうかがいながら、産地の真ん中で、こけしとその周辺について語り合うとともに、木地業に生きる現役工人の声を記録していきます。(こけしぼっこ)

＊括弧内は、せんだいメディアテークと協働でプロジェクトをおこなっている団体です。

スタジオではこのほかにも
いろんな取り組みがあります

＋ 考えるテーブル

人が集い語り合いながら震災復興や地域社会、表現活動について考えていく対話のための場です。さまざまなスタジオ協働団体やメディアテークがホストをつとめ、黒板に仕立てたテーブルをメディアとして、ライブで語り合います。
http://table.smt.jp/

＋ 3がつ11にちをわすれないためにセンター

市民、専門家、スタッフが協働し、復旧・復興のプロセスを独自に発信、記録するプラットフォームです。映像、写真、音声、テキストなどさまざまなメディアの活用を通じ、情報共有・復興推進に努めるとともに、収録されたデータを「震災の記録・市民協働アーカイブ」として記録保存しています。
http://recorder311.smt.jp

＋ バリアフリーデザイン

社会の中のさまざまな「バリア」に目を向け、課題を共有していくための取り組みをおこないます。目や耳の不自由な方に限らず、あらゆる人が、メディアテークを通じて多様な活動に参加できる環境を提供します。
http://www.smt.jp/barrierfree/

＋ ことりTV

市民ディレクターが、仙台の人や出来事を紹介するテレビ番組「ことりTV」。メディアテークのスタジオ機材を使い、取材や撮影、映像編集のノウハウを学びながら制作に取り組みます。制作されたテレビ番組は、ウェブサイトでも公開しています。(協働：仙台CATV)
CAT-V NETTV
http://cat-vnet.tv/movie/kotori/menu.html
http://www.smt.jp/projects/kotori/

お問い合わせ先
せんだいメディアテーク企画・活動支援室
office@smt.city.sendai.jp
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
tel 022-713-4483 fax 022-713-4482
www.smt.jp

このチラシはリサイクルできます

メディアスタディーズ

メディアスタディーズは，
メディアを活用して，
地域の文化をつくる
さまざまなプロジェクト群の総称です．

ディアスタディーズとは

メディアスタディーズは、メディアを活用して、地域の文化をつくるさまざまなプロジェクト群の総称です。メディアスタディーズは、大きくふたつの方向性を持っています。

ひとつは、デジタルアーカイブ活動です。民話や芸能などの伝承文化を映像や音声で記録したり、昔の街並みの写真を画像データに変換して保存するなど、私たちの身の回りにある、たくさんの記録しておくべき事柄を取材し、適切な方法でアーカイブしていきます。その成果は、映像音響ライブラリーやウェブサイトのほか、展示などで公開します。

もうひとつは、メディアを使った創作と実践の活動です。企画会議や出版のための編集作業、あるいは公開プレゼンテーションなど、さまざまな現在形の表現活動のプラットフォームとなっていきます。

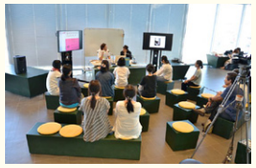
そして、これらの活動のために、スタジオに備わる映像機器やコンピューターだけでなく、活版印刷機のようなアナログな装置や、人が集う場そのものも有効なメディアとして捉え、活用していきます。

使いながら考え、考えながら使うという、メディアスタディーズの活動は地域の生活の中から豊かな文化を育む素地となります。さらには、その活動者同士がメディアテークで出会うことで、新たなプロジェクトが発生していく環境づくりを実現していきたいと考えています。

スタジオとは

個人・グループによる映像や音声などのデジタルメディアを用いた表現活動やその発信のための環境を備えています。７階外周部のオープンな空間を３区域に分けたスタジオａ、ｂ、ｃや、７階外周の南側には展示などができるラウンジがあります。

スタジオａ



黒板仕立ての机や椅子があり、小規模なトークイベントや、打合せや会議などがおこなえます。30名程度まで集まることができます。

スタジオｂ

ホワイトボード仕立ての机があり、中規模なトークイベントや、打合せのほか、編集・制作作業などがおこなえます。40名程度まで集まることができます。

スタジオｃ

点訳ソフトが入ったパソコンや、点字プリンターなどがあり、バリアフリーデザインの活動で使える機材があります。また、5〜6名程度の打ち合わせができます。

ラウンジ

プロジェクトの公開調査、成果の展示をすることができます。

スタジオで使える機材

- ▸映像撮影用（ビデオカメラ、三脚など）
- ▸写真撮影用（デジタルカメラ、三脚など）
- ▸録音用（ICレコーダー、マイクなど）
- ▸展示・プレゼン用（自立式スクリーン、モニター、プロジェクターなど）
- ▸編集・制作用（パソコン、スキャナー、映像／画像編集ソフトなど）

＊一部機材は館外貸出可能です。（貸出期間1週間）

活動の成果について

発信の媒体として、２階映像音響ライブラリー（DVD資料としての公開）、ウェブサイト、ことりTV（ケーブルテレビ番組枠）などがあります。

活動の流れ　たとえばこんなプロジェクト？

※プロジェクトは架空のものです。

自転車映画祭操業

Aさん
24歳 会社員
自転車と映画が好き

映画が好きなので、映画祭とかしてみたいと思っていたけれど、一緒にやる仲間がいなかった。○○映画祭の主催者を招いて映画祭づくりのノウハウを聞いたり、ほかの映画祭を知るための勉強会を開けば、きっと映画祭づくりに興味のある人が集まるんじゃないかと、自分で企画することにした。そしたら、意気投合する人に会えたので、より良い映画祭を考える勉強会を重ねつつ、２年後の「自転車映画祭」開催を目指して活動している。

どんな映画祭にしたいかを話し合う
↓
実際に映画祭を運営している人に来てもらい話を聞く
↓
○○年後、「自転車映画祭」を実施する

じっじ・ばっぱの戦争語りを聞く

Bさん
32歳 学校教諭
一児の父

最近、戦争を経験した人たちが少なくなってきていると聞いた。私も祖母から少しだけ聞いたことがあるが、もっといろんな話を聞いておきたいと思う。友達に話してみたら、共感してくれたし、きっとほかにも聞きたい人はいるはず。だったら、話をしてくれそうなお年寄りを招いて、みんなで当時のお話を聞く小さなイベントなんて、開催できないかな。せっかくだから録音したり、映像で残せると良いのになぁ。

戦争体験について話をしてくれる人を取材し交渉する
↓
「じっじ・ばっぱの戦争語りを聞く会」をひらく
↓
会の様子をビデオカメラで撮影・編集し、DVDにまとめる

sendai ZINE dicate

Cさん
18歳 学生
デザイン科

「ZINE*」が好き。自分でもつくっているけれど、仙台ではあんまり盛り上がっていないような気がする。だったら、つくっている人とかZINEを扱ってくれているショップさんとかみんな集まって、技術的なこととかいろいろ情報交換したり、小さな展示とかできたりしないかな。あ、そういうことする団体をみんなでつくるとか？名前は「sendai ZINE dicate」に決めた。

＊ZINE（ジン）＝有志の人々が制作する、少部数で非商業的な冊子。コピー機で印刷し、ホチキスで簡易に綴じることが多く、ミニコミ・同人誌・リトルマガジン・リトルプレスなど名称や形態もさまざまある。

ZINEの情報交換会をひらき、sendai ZINE dicateに参加してもらう
↓
ZINEを集めて、小さな展示をする